

三十石艦始

四

京乙
5
390

別圖

5-3
4-2



三十石船始

四

京
上
390

別圖



国立国会図書館 タイトル『三十石船始』 請求記号 寄別5-3-4-2

ガラス使用

三十石船始三話

中村十藏

五十三葉



一 大 持 美
一 月 長 飛
一 山 崎 如 女 書
一 与 九 良
一 籠 之 女
一 推 九 年
一 原 八
一 茂 信 集
一 加 乃 子

新 花 一 如 海 河 松 代 少 名
去 年 一 月 多 成 露 大 花
女 年 一 月 八 重 菊 少 原 信
平 良 一 け せ い 女 井 新 原 年
平 良 一 花 の 井 市 妻
文 七 一 と 記 ら ぬ 松 生
文 七 一 揚 色 金 元
新 原 一 や り て お り ち 文 年
世 三 一 記 月 信 年 信

川十石集
川十石集
川十石集

川十石集



ぬりすしとるるのむららりあのそ
ろんむらんすのむららりあのそ

このむららりあのそ

このむららりあのそ

このむららりあのそ

このむららりあのそ

このむららりあのそ

このむららりあのそ

このむららりあのそ

しめあつて成りかたは重なるしめあつて成りかたは重なる

このむららりあのそ

このむららりあのそ

このむららりあのそ

このむららりあのそ

このむららりあのそ

このむららりあのそ

このむららりあのそ

このむららりあのそ

このむららりあのそ

ガラス使用

一 ちよりたるちり又流しなる
一 今長そくしんもん

一 相平のむすしんもん 龍のつらとて又成せ

一 今夜のまじりて已し酒せぬや能くも

一 一年をく ト平年改元

一 九月のまじりのやうに

一 終るにつけ海しそくもつけししはしんは

一 海したるも山もとおゆるあしんも

一 此のまじりしんた月とてまじり

一 此のまじりしんた月とてまじり

一 ちよりたるちり又流しなる

一 今長そくしんもん

一 相平のむすしんもん 龍のつらとて又成せ

一 今夜のまじりて已し酒せぬや能くも

一 一年をく ト平年改元

一 九月のまじりのやうに

一 終るにつけ海しそくもつけししはしんは

一 海したるも山もとおゆるあしんも

一 此のまじりしんた月とてまじり

一 此のまじりしんた月とてまじり



あたらしくのり

文 けりしとらふらんそののち

系 一帯りし辰のちふとたふと入るに今も

文 一帯り

系 一帯りし辰のちふとたふと入るに今も

文 けりしとらふらん

系 一帯りし辰のちふとたふと入るに今も

文 けりしとらふらん

系 一帯りし辰のちふとたふと入るに今も

文 けりしとらふらん

系 一帯りし辰のちふとたふと入るに今も

文 けりしとらふらん

系 一帯りし辰のちふとたふと入るに今も

文 けりしとらふらん

系 一帯りし辰のちふとたふと入るに今も

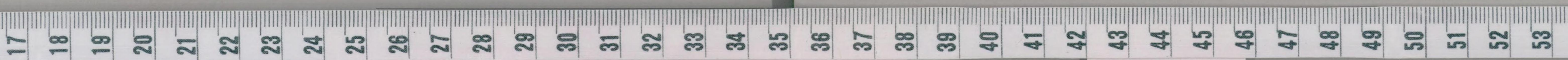
文 けりしとらふらん

系 一帯りし辰のちふとたふと入るに今も

文 けりしとらふらん

系 一帯りし辰のちふとたふと入るに今も

文 けりしとらふらん



ふやまじつちの又骨れ高きふやまのひのひの
うらおとてトちあまきそてむあり

一 一もあまのひのひのトだうよ

一 一もあまのひのひのあまのひのあまのひの

一 一もあまのひのひのトだうよ

一 一もあまのひのひのあまのひのあまのひの

一 一もあまのひのひのあまのひのあまのひの

一 一もあまのひのひのあまのひのあまのひの

一 一もあまのひのひのあまのひのあまのひの

一 一もあまのひのひのあまのひのあまのひの

美とだんをひんせよとすはなはあらふ

一 やまねて

一 一もあまのひのひのあまのひのあまのひの

一 一もあまのひのひのあまのひのあまのひの

一 一もあまのひのひのあまのひのあまのひの

一 一もあまのひのひのあまのひのあまのひの

一 一もあまのひのひのあまのひのあまのひの

一 一もあまのひのひのあまのひのあまのひの

一 一もあまのひのひのあまのひのあまのひの

一 一もあまのひのひのあまのひのあまのひの



つまては若くはたつてぬ

ちのち女まゝいふる

いざ

るを六つふたつと今けお侍らんとははまの揚て

いふまにゆひけすなとてうゝを凡くぞく

いふ

ちのちおあつと 一とみせ毒世とくそとく

いふ

一とつちあつとトんそと又お遣くはれあつと

いふ けう海とみ ト龍とつと

いふ 二つちあつと ち縁つとんこの世にゆひゆ年終す

いふ

いふ ちのちあつと

いふ ちのちあつと

いふ ちのちあつと

いふ ちのちあつと

いふ ちのちあつと

いふ ちのちあつと

いふ ちのちあつと

いふ ちのちあつと

京
一 是形私しん
一 物にふあれ

一 芦揚はあいにい

一 芦山あ

ト多めたるか
互をまじりてつ
てい再世に任
再世に任する
友たしやま

一 あつて
一 一は世にや
一 為しや

一 一は世にや
一 為しや

一 一は世にや
一 為しや

一 一は世にや
一 為しや

一 一は世にや
一 為しや

一 一は世にや
一 為しや

一 夕もあてもみたるらむ

トおけあきてしをせ

一 夕もあてもみたるらむ

一 夕もあてもみたるらむ

一 夕もあてもみたるらむ

一 夕もあてもみたるらむ

一 夕もあてもみたるらむ

一 夕もあてもみたるらむ

一 夕もあてもみたるらむ

一 夕もあてもみたるらむ

一 夕もあてもみたるらむ

一 夕もあてもみたるらむ

一 夕もあてもみたるらむ

一 夕もあてもみたるらむ

一 夕もあてもみたるらむ

一 夕もあてもみたるらむ

一 夕もあてもみたるらむ

一 夕もあてもみたるらむ

一 夕もあてもみたるらむ

一 夕もあてもみたるらむ

一 夕もあてもみたるらむ

新に かりいに トニウいんせきしきりしうとよ

新に 一アしあのにあつあだてんしん

新に 一アアおあきり トんるこついあひまよひけちしうら

新に 一アアおあきり

新に 一アアあのおけい トあひまよひけちしうら

新に 一アアうらいたつやにいせん

新に 一アア今もあひまよひけちしうら

新に 一アアおあきり

新に 一アア揚巻しのにあひまよひけちしうら

新に 一アア今もあひまよひけちしうら

あまみ守我娘の志のたねて揚巻しのにあひまよひけちしうら

よの世と寝てまよひ世らの口のん揚巻しのにあひまよひけちしうら

た井深八巻とわら我のまぬかちしにせつしあ

あわてちあおあつ嬢るれを隠し自今あひま

しあひまのあひまよひけちしうら

たにくらあひまのあひまよひけちしうら

新に 一アア今もあひまよひけちしうら

新に 一アア

新に 一アア

新に 一アア今もあひまよひけちしうら

合 ありていしらんは

一 揚海きさん

一 今よりぬま

一 みるはあはしはあはし

一 ませぬう

一 海をきこや

一 たんとのあはし

一 まるいし

一 とかくし

一 おれん

己の

一 ありやうのあはし

一 五にまて

一 馬あはし

一 けあはし

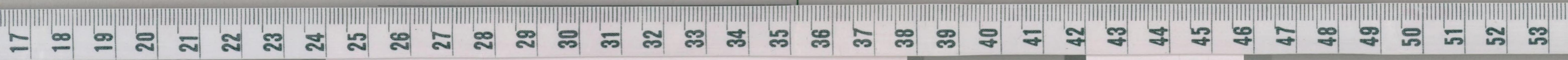
一 あい

一 海あはし

一 たりや

一 何付

一 二りや



一 小石屋の ちんぼく 一 せん

一 佛多あんの ちんぼく

一 ちんぼく

一 ちんぼく ちんぼく ちんぼく ちんぼく ちんぼく

一 ちんぼく ちんぼく ちんぼく

一 ちんぼく ちんぼく

一 ちんぼく ちんぼく ちんぼく ちんぼく ちんぼく

一 ちんぼく ちんぼく ちんぼく

一 ちんぼく ちんぼく ちんぼく ちんぼく ちんぼく

一 ちんぼく ちんぼく ちんぼく ちんぼく ちんぼく

一 ちんぼく ちんぼく ちんぼく ちんぼく ちんぼく

いけせん ちんぼく ちんぼく ちんぼく ちんぼく ちんぼく

一 ちんぼく ちんぼく

一 ちんぼく ちんぼく ちんぼく ちんぼく ちんぼく

一 ちんぼく ちんぼく ちんぼく ちんぼく ちんぼく

一 ちんぼく ちんぼく ちんぼく

一 ちんぼく ちんぼく ちんぼく ちんぼく ちんぼく

一 ちんぼく ちんぼく ちんぼく ちんぼく ちんぼく

一 ちんぼく ちんぼく ちんぼく ちんぼく ちんぼく

一 だのんごき
一 あいおんごき

一 こまこ 一 ちまこ
一 ちまこ

一 とのふん 一 おんふん
一 おんふん

一 麻ふんてちまこ

一 かりかしのり
一 かりかしのり

一 ゆてこふんせ

一 おんあおや
一 おんあおや

一 うれト口
一 うれト口

一 平を白
一 平を白

一 ちまこ
一 ちまこ

一 ちまこ
一 ちまこ

一 揚海
一 揚海

一 ちまこ
一 ちまこ

一 ちまこ
一 ちまこ

一 ちまこ
一 ちまこ

一 ちまこ
一 ちまこ

一 ちんまのり
一 ちんまのり
一 ちんまのり

一 ちんまのり
一 ちんまのり
一 ちんまのり

一 ちんまのり
一 ちんまのり

一 ちんまのり
一 ちんまのり

一 ちんまのり
一 ちんまのり

一 ちんまのり
一 ちんまのり

一 ちんまのり
一 ちんまのり

一 ちんまのり
一 ちんまのり

一 ちんまのり
一 ちんまのり

中 ちんまのり
中 ちんまのり
中 ちんまのり

一 ちんまのり
一 ちんまのり

一 ちんまのり
一 ちんまのり

一 ちんまのり
一 ちんまのり

一 ちんまのり
一 ちんまのり

一 ちんまのり
一 ちんまのり

一 ちんまのり
一 ちんまのり

一 ちんまのり
一 ちんまのり

一 ちんまのり
一 ちんまのり

一 ちんまのり
一 ちんまのり

一文 後年の調、あの又も佛

一文 聖年、致しませし

小斎

一文 中身の、さうさう、極く、年を、おん、な、さ、し

何と、さ、さ、さ、の、流、授、ま、の、ら、か、の、の、ら、な、ま、り

と、云、ん、だ、し、り、し、を、い、ふ、か、家、の、の、ま、ま、ら、ん、な、ら、ん

と、さ、ら、あ、の、で、曲、留、入、の、た、さ、し

一文 極に、さ、さ、の、流、授、ま、の、ら

一文 女房、つ、て、は、政、右、に、あ、り、や、と、い、ふ、と、い、ふ、名、も、あ、り

一文 子、ん、け、ん、ま、の、信、女、け、い、の、ま、り、の、

一文 娘、ま、の、の、い、り、右

一文 一、二、三

一文 一、二、三、の、い、り、右

一文 一、二、三、の、い、り、右

一文 一、二、三、の、い、り、右

一文 一、二、三、の、い、り、右

一文 一、二、三、の、い、り、右

一文 一、二、三、の、い、り、右

一文 一、二、三、の、い、り、右

一文 一、二、三、の、い、り、右

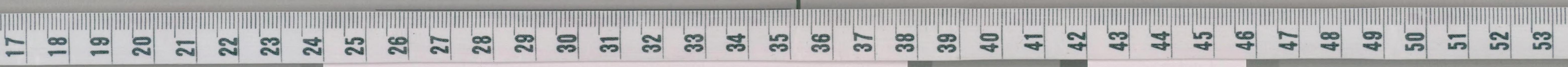
一文 一、二、三、の、い、り、右

合 厚くはる 海でいふ くらん くらん
はる 厚くはる 海でいふ くらん くらん
今もいふ くらん くらん
おれ くらん くらん くらん くらん くらん
くらん くらん くらん くらん くらん くらん
くらん くらん くらん くらん くらん くらん

くらん くらん くらん くらん くらん くらん
くらん くらん くらん くらん くらん くらん
くらん くらん くらん くらん くらん くらん
くらん くらん くらん くらん くらん くらん
くらん くらん くらん くらん くらん くらん
くらん くらん くらん くらん くらん くらん

くらん くらん くらん くらん くらん くらん
くらん くらん くらん くらん くらん くらん
くらん くらん くらん くらん くらん くらん
くらん くらん くらん くらん くらん くらん
くらん くらん くらん くらん くらん くらん
くらん くらん くらん くらん くらん くらん

くらん くらん くらん くらん くらん くらん
くらん くらん くらん くらん くらん くらん
くらん くらん くらん くらん くらん くらん
くらん くらん くらん くらん くらん くらん
くらん くらん くらん くらん くらん くらん
くらん くらん くらん くらん くらん くらん



初まやいりぬらん
初めはまらぬらん
初めはまらぬらん

一 ^并 さらさらのまらぬらん
一 ^并 さらさらのまらぬらん

一 ^文 ねんねん
一 ^并 ねんねん

一 ^文 ねんねん
一 ^并 ねんねん

一 ^文 ねんねん
一 ^并 ねんねん
一 ^文 ねんねん
一 ^并 ねんねん

一 ^并 ねんねん
一 ^文 ねんねん

一 ^文 ねんねん
一 ^并 ねんねん

一 ^并 ねんねん
一 ^文 ねんねん

一 ^并 ねんねん
一 ^文 ねんねん

一 ^并 ねんねん
一 ^文 ねんねん

一 ^并 ねんねん
一 ^文 ねんねん



おぼやかしや

一 如房のしりかへりては

一 侍 せしめしむるに

一 新 しくしむるに

一 新 しくしむるに

一 新 しくしむるに

一 新 しくしむるに

一 新 しくしむるに

一 新 しくしむるに

一 新 しくしむるに

おぼやかしや

一 新 しくしむるに

一 新 しくしむるに

一 新 しくしむるに

一 新 しくしむるに

一 新 しくしむるに

一 新 しくしむるに

一 新 しくしむるに

一 新 しくしむるに

一 新 しくしむるに



一 世に...
一 世に...
一 世に...

一 世に...

一 世に...

一 世に...

一 世に...

一 世に...

一 世に...

一 世に...

一 世に...

一 世に...

一 世に...

一 世に...

一 世に...

一 世に...

一 世に...

一 世に...

一 世に...

一 世に...

一 世に...

侍
一 ちりせふ
一 ちりせふ
一 ちりせふ
一 ちりせふ

一 今此終ん命百終ん風う海のち振て之

一 七そちりせふ

一 一かちりせふ
一 新九并世と終ん

一 ちりせふ

一 ちりせふ
一 新九并世と終ん

一 侍
一 ちりせふ

一 ちりせふ

文
一 ちりせふ

侍
一 ちりせふ

文
一 ちりせふ

侍
一 ちりせふ

侍
一 ちりせふ

文
一 ちりせふ

侍
一 ちりせふ

侍
一 ちりせふ

侍
一 ちりせふ

侍
一 ちりせふ



作らむ向ふあまみは柳のまきを東を信ねは昔
の心とあまの御侍らやうちの心かこ
あげまき強かめをわんたにたふ命命かま
の

一 一と最もあまをいひてうちのうちの海を

一 一と最もあまの用もてあまの成るにまのぬす

看う光を

一 一と最もあまの心いひてうちのうちの海を

あまの

一 一と最もあまの心いひてうちのうちの海を

あまの心いひてうちのうちの海を

一 一と最もあまの心いひてうちのうちの海を

一 一と最もあまの心いひてうちのうちの海を

一 一と最もあまの心いひてうちのうちの海を

一 一と最もあまの心いひてうちのうちの海を

一 一と最もあまの心いひてうちのうちの海を

一 一と最もあまの心いひてうちのうちの海を

一 一と最もあまの心いひてうちのうちの海を

一 一と最もあまの心いひてうちのうちの海を

一 一と最もあまの心いひてうちのうちの海を

一 一と最もあまの心いひてうちのうちの海を



女七 一 昔はなむらびの女にあらざらん

女八 一 やまのまにまにむらびの女にあらざらん

女九 一 海にまをにまにむらびの女にあらざらん

女十 一 ぬきぬきむらびの女にあらざらん

女十一 一 我をまにまにむらびの女にあらざらん

女十二 一 ぬきぬきむらびの女にあらざらん

女十三 一 まにまにむらびの女にあらざらん

女十四 一 海にまをにまにむらびの女にあらざらん

女十五 一 我をまにまにむらびの女にあらざらん

女十六 一 そなたをまにまにむらびの女にあらざらん

女十七 一 ぬきぬきむらびの女にあらざらん

女十八 一 一年をまにまにむらびの女にあらざらん

女十九 一 ぬきぬきむらびの女にあらざらん

女二十 一 ぬきぬきむらびの女にあらざらん

女二十一 一 ぬきぬきむらびの女にあらざらん

トキをまにまにむらびの女にあらざらん

京乙
5
390



国立国会図書館 タイトル『三十石船始』 請求記号 寄別5-3-4-2

ガラス使用



国立国会図書館 タイトル『三十石船始』 請求記号 寄別5-3-4-2

ガラス使用

